

五輪招致の実態は、甘い見通しと巨額の税金の投入

直ちに中止し、福祉と生活の充実を (3)

東京都議会議員 福士敬子

前号からのつづき

福士「“健全な”NPOで毎日努力されている皆さんから見たら、たいそううやまいいことでしょうね。日本オリンピック委員会(JOC)の人たちや他の民間の人たちもいて、いくらでもお金を儲けても良いようにNPO法人でやっているのに、実態は『税金投入』です。招致委員会の啓発活動費は、最初は2億円のはずだったのが7億8000万円になっています。予定ではお金をこれだけかき集めますよ、いろいろなところからこういうふうに寄付をもらいますよ、というはずだったのが、現実にはなかなかお金が入ってこないで、その他の事業会計からの繰り入れ金も、当初7億円の予定だったのが3500万円ぐらいしか入ってないとか、寄付金の収入も7億6000万円の予定だったのが5億円弱しか入ってこないとか、まったく予定通りに行っていません。補助金収入については、予定もしていないものがどんどん膨らんでいって、6億円も超えて出されている。これはどこから出たかという、当然都の税金の中から出て行くわけですから、皆さんの予定外の税金はどんどんこういうことに使われているのです。予算と支出の関係がぜんぜんバラバラになっています。バラバラになっているというより、招致委員会はまったく予定通りに進んでいないという状況です。招致委員会は、お金が足りなくなればいくらでも東京都がまわしてくれると思っているみたいですが、独立しているはずの招致委員会の実態とは、杜撰な予定しか作れず実行力もない、税金

浪費のすねかじり組織なのです。」

聞き手「先ほど招致委員会のことを『都とつかず離れず的な関係』と仰った理由がわかってきました。」

福「招致委員会の話をなぜ長々としたかと言いますとね、税金からどんどん入っているにもかかわらず、招致委員会というのは東京都の仕事とは別のものになりますので、お金がなかなか見え難いんですね。」

聞き手「なるほど、彼らにとってそういう利点があるのですね。」

福「『早く決算を教えてください。』と言っても、なかなか教えて頂けなくて、その中でうちのスタッフも苦労しながら数字を集めました。招致委員会の数字は、本来表向きにするのは5月頃ですかね、東京都と一緒に総会をやるときにだけしか出てこない、ので、予定と現実とどのくらいの開きがあるか、というのがわかるのは年に一回しかありません。途中で『おかしいんじゃないか?』と言いたくてもなかなか言えない状況にあります。」

聞き手「先ほどの『都が担当するとまずいことは招致委員会に押し付けて』の意味もわかってきましたね。」

福「最初、東京都の招致活動の負担は15億円だけだよと、民間が主にやりますよ、という話の民間というのは、実は招致委員会の方ががんばって仕事をしますよ、という話だったんですね。それがいつの間にか東京都ががんばってお金を出さなければいけない状況になっていて、『予